



呉巡検調査を振り返って その三

具, 知瑛

(Citation)

海港都市研究, 18:83-84

(Issue Date)

2023-03-27

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/0100482806>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100482806>



呉巡検調査を振り返って その三

具知瑛(グジョン)

今回の巡検は、海港都市研究センターからの誘いだということで深く考えずに承諾したものの、私は呉市のことも日本の軍港都市のことも全く知識がなかった。そのうえ、3年ぶりの訪日で、入国審査からわずか3時間後には市役所でのインタビュー調査に同席することになっていた。いわば、韓国語の世界から突然日本語の世界に飛び込むや否や、敗戦直後における呉市のカオスの物語に引きずり込まれる羽目におちったのである。私にとって、今回の巡検はこのように、他者でありなおかつ素人である者の目に映る戸惑いと疑問から始まった。

初日にお話を聞かせてくださったのは、1930年生まれで呉市で90年以上生きてきた佐藤康則氏と、大和ミュージアム元学芸員であった1960年生まれの道岡尚生氏であった。お二人の語り方の対照性は非常に印象的であった。佐藤氏の語りはあたかも昨日の出来事のようにとても明瞭である一方で、道岡氏の語りには一貫してあいまいで複雑な感情が透けて見られた。佐藤氏は、戦争中呉海軍工廠で働き、敗戦後イギリス海軍のウェイターや運転手として10年ほど働いた後、日新製鋼に入社し定年まで勤めあげている。彼の語りは、“昭和20年3月16日の第一の空襲の際に、〇〇人の同級生とで”といったように、徹頭徹尾、日にち、場所、人数、風景、その時の感情までもが詳細に語られ、佐藤氏の年齢とかなってとても印象的であった。一方の道岡氏は、今は痕跡もない闇市、遊郭、ヤクザというキーワードで示されるような敗戦直後の呉市の無秩序な状態からはじまって、戦後の経済難、朝鮮戦争を機とした経済復興、今年9月に予定されている日本製鉄の閉鎖に至るまでの呉市のダイナミックな社会経済的変動についてお話いただいた。なかでも「平和」を建前とする広島県の方針と一見して相いれない大和ミュージアムの建立プロセス、旧帝国のノスタルジーを刺激するような「海軍文化」を観光資源とする呉市産業部のビジネス戦略などに対する道岡氏の錯綜する思いが印象的だった。市産業部の對川氏によると、大和ミュージアムにはパンデミックの以前には年間100万人から300万人までの来客が入っていたという。コロナを経た今、インタビューを終えてホテルに帰ろうにもタクシーは拾えず、仕方なく歩いた商店街は早くもシャッター街と化していた。

二日目の午前を訪ねた大和ミュージアムには意外と家族連れの来客が多く、市役所で聞

いた来客の規模に関する話を実感した。常設展示は軍艦「大和」の造船する科学技術、造船や製鉄など戦後日本の経済成長を支えた呉市の技術に焦点が当てられていた。そこに証言者として佐藤氏の映像が流れていた¹。午後には呉港で艦船めぐりをし、私は2020年からの世界的な激変を思い出しながら隣国の海軍施設を複雑な気持ちで眺めていた。

三日目は夕食のために訪ねたカキ船の女将さん(53歳)が呉の過去と現在について話してくれた。戦前海軍で砲台作っていた女将さんの祖父は、誇りに思っていた自分の仕事が、戦後人を殺すためのモノということで恥になったこと、経済的に窮境な生活を送った日々、ヤクザが維持した街の秩序などを彼女自身の立場から複雑なことを複雑なままに語ってくれた。また、政治経済的に浮き沈みの激しかった呉市でカキ船を経営することの誇りと、日本製鉄呉工場の閉鎖によって若者が去っていく未来に関する不安などについての語りからは、彼女の愛郷心を感じ取ることができた。彼女の語りを聞きながら、私は初日にお話をうかがったお二人に感じた疑問に一つの解を得たような気がした。佐藤氏が継続して取り組んでこられた「戦争証言」が固定的であることと、それを時代のなかで不断に再解釈しながら次世代に継承していく立場の道岡氏の語りが茫漠とした曖昧さを有していることは、おそらくごく当たり前のことなのだろう。

基幹産業である日本製鉄の閉鎖後、この町はどうなっていくのだろうか。日本製鉄関連で働いていた3千人ほどの人々は、今後いったいどこに流れていくのだろうか。今回の巡検を終えてから思い出した。私の研究の原点があるとするならば、かつてこの海港都市研究センターの先生方と一緒に歩いた東アジアの様々な海港都市にあることを。

(韓国海洋大学)

¹ 佐藤氏の証言は、『NHK 戦争証言アーカイブス』の特集番組「巨大戦艦大和～乗組員たちが見つめた生と死」のうち、「海軍工廠で勤労働員の日々」というタイトルで掲載されている。
https://www2.nhk.or.jp/archives/shogenarchives/shogen/movie.cgi?das_id=D0001150116_00000